

第127回免疫系発生学セミナー

# 笠井 道之 博士

国立感染症研究所 主任研究官

## 免疫疾患のリスク マネジメント

5月12日 (木) 17:00~18:00

疾患ゲノム研究センター1階  
交流ホール

T細胞の胸腺内選択が「MHC拘束性」と「自己寛容性」を原理にしていることはよく知られている。この2点を基本に、T細胞の胸腺内選択とは、免疫応答に際して末梢リンパ組織で起こるリスクをマネージするシステムとして捉え直してみることができるのではないだろうか？このような考えを進めてみると、胸腺微小環境の必然性が改めて浮かび上がってくるかもしれない。

T細胞の胸腺内選択をもたらす胸腺微小環境の本体である胸腺上皮細胞を対象に、細胞株産生技術を駆使した独自の研究を進めておられる笠井博士を迎えてセミナーを開催いたします。多数のご来聴をお待ちしております。

PLoS One. 5(12):e15225, 2010  
Methods Mol Biol. 380:107-123, 2007

J Immunol. 183:7278-7285, 2009  
J Immunol. 177:2324-2330, 2006

問合せ: 疾患ゲノム研究センター生命システム形成分野(大学院医科学教育部免疫系発生学)  
高浜洋介 (x9452, takahama@genome.tokushima-u.ac.jp)